

＜河野太郎 衆議院議員＞

インタビュー：金野策一、渡邊健、野口昌克

金野)河野先生は非常に上手くソーシャルメディアを使っていると思いますが…。

河野)私は1986年、富士ゼロックスに入社し、そこで“ネットワークに繋がった”PCに初めて出会ったんですよ。衝撃でしたね。『世界は、ここまで進んでいるんだ』と思った。その頃からです、コンピュータに興味を持ち始めたのは。1996年には政治家に転身しましたが、すぐにホームページを作ると言って、慶応SFCの取り巻きにホームページを立ち上げてもらったりしました。とにかく始めるのは早かったと思いますね。

現在のホームページは縁あってデジタルハリウッドの生徒が卒業制作で作ってくれたものです。卒業後もメンテナンスしてもらっています。

金野)内容の更新なんかも委託されているんですか。

河野)基本、ソーシャルメディアの“操作”は自分でやっています。事務所のネットサポートは全くなし、個人の趣味的な扱いでした(笑)。あとは、個人的な繋がりでのボランティア。地元滞在の事務所スタッフ1名を最近やっと担当に任命したんですよ。

国会議員になって間もなく、議員の仕事振り-朝何時からどんな仕事をしているのか-を有権者に知ってもらうために、「まぐまぐ!」の無料メルマガを開始しました。メルマガはその後、有料版-月額500円のワンコインなんですが、結構苦労しています-も導入しました。無料版と有料版の内容はほとんど同じですが、有料版には写真を増やす、人名をイニシャルではなく実名にする等の工夫をして差別化を図っています。

その後、ブログ、ミクシィと続いているんですが、ミクシィはどうもブログとは読者層が違うのではないかって始めて始めました。特に、ミクシィはこれまでと違い、読者からコメントがつけられるのが魅力でした。それからフェイスブック。こちらはかなり早い段階から、同級生との連絡用として利用を始めました。しかし、ミクシィやその後始めたフェイスブックも、友達申請の見極めが面倒なのでメンテナンスが進まなくなっていました。フェイスブックは専ら本当の友人だけのコミュニティにしようとしたんですが、現在はほったらかしに近いですね(苦笑)。

ブログで「ツイッターやらない」宣言をしたんですが、孫(正義)さんから食わず嫌いを注意され、始めました。3.11直後、自民党が持っていた燃料供給ラインの話題を流したところ実需が大きくて、フォロワーが急増しましたね。

渡邊)米国の大統領選挙などを見ていると、ネット献金が活発なのですが、ソーシャルメディアを活用する効用としてその辺りはどのようにお考えですか。

河野) ネット献金の意義は、本来的には、政治家を小口を支えよう、地域に限定されることなく、政策で国民が政治家を選択し、応援できることにあると思います。しかし、私に例えば、直接、寿司をおごってあげようという方はいても、ネット献金をしようという方は、今はほとんどいない(笑)。私も、試行錯誤の後、ネット献金として楽天カードを利用して始めましたが、そもそもその前に一般の有権者にとって、政治家に接触すること、献金することが特別すぎる風潮がありますよね。そこにメスを入れないとネット献金どころではないのではないのでしょうか。ただし、私自身の場合、ネット献金はやはり 3.11 後、原子力問題が注目され、応援の意味で増えてきましたね。

金野) そうすると政治家から見たソーシャルメディアの効用というのは何でしょうか。

河野) アウトプットの際、勝手に編集されないことですね。ただし、自分でやるのは大変なんです(苦笑)。新橋・平塚間の電車でブログを書いてアップするのが習慣なんですけど、結構しんどい。それから、5 分の待ち時間にツイッターをするんですが、よく考えると以前は空き時間に本を読んでいたな、と。アウトプットは増えましたが、インプットが確実に減っているんですね。非常に危機感を持っています。

また、ツールを増やせば、読者の公平感も考えねばなりません。夜中に有料メルマガを配信して、翌朝、無料メルマガを配信する。そのまとめをブログで配信する、といった配慮が必要です。

渡邊) 先生のホームページを拝見すると、動画を上手く活用されているな、という印象を受けます。

河野) ユーチューブの動画は、原子力や後期高齢者の問題等を“10 分”といった限られた時間で説明できるのが魅力です。テキストでブログを全文読んで頂くのは大変かもしれないけれど、10 分の動画なら見てもらえるかもしれないと思っています。

金野) 自民党さんは政党として上手くソーシャルメディアを活用していますが…。この人は上手く使っているという方はいらっしゃいますか。

河野) 自民党内には松本純さん、平井たくやさん、世耕さん等、ネット利用に積極的な仲間も多いですからね。

金野) 我々としても政治にソーシャルメディアが活用されて市民の参加が進めばいいと思っているので、何かアドバイスを頂けませんでしょうか。

河野) 先ほどもお話しした通り、ネット献金云々の前に、有権者から見て、自分達が実現したい政策を政治家に働きかけることが特別でない状況にすることが先決ですよね。例えば、日本政策学校のような中立な組織が、政治家や政党のホームページのスクリーニングや米国で実施されている

“保守・リベラルランキング”のようなもの、或いは政策ごとのグルーピング等を実施していくと面白いのではないかと思います。

金野）ありがとうございました。